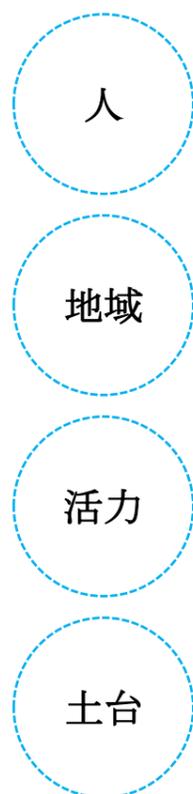


# 行動指針(案)

## 都市ビジョン

- ◆ 都市像 ともに生き ともに輝く にぎわい交流拠点都市
- ◆ 目指す 2030 年の定住人口 51.8 万人、交流・関係人口の構築
- ◆ 多核連携型都市構造の構築

目指す都市像を実現するためには、市民、企業・団体、行政それぞれが、人口減少社会において直面する様々な地域課題に対して、環境・経済・社会のバランスを重視し、限りある地域資源を最大限に活かしながら、次の姿勢を基本として、地方創生や課題解決への取り組みを進めることが大切です。



### 多様な個性が輝く「人」づくり

年齢、性別、国籍、障害の有無等に関係なく、市民一人ひとりを地域社会の担い手として認め合い、それぞれが持つ能力や経験を最大限発揮できるよう取り組む姿勢

### つながり、信頼し合う「地域」づくり

市民、地縁団体、産官学金労言、近隣市町など、多様な立場や考え方を持った主体同士が互いに信頼し力を合わせ、地域社会を築いていく姿勢

### 世界に飛躍する「活力」づくり

姫路・播磨が持つ優位性や ICT・AI 等の先端技術などを活かし、世界に誇れる新たなまちの活力を生み続ける姿勢

### 命と暮らしを支える「土台」づくり

未来の市民を含め、誰もが健やかに、そして快適に住み続けられるような仕組みや基盤づくりに取り組む姿勢

## 分野別あるべき姿・政策

都市ビジョンを分野ごとに具体化した「分野別あるべき姿」を設定し、その実現のための政策を示す

市民活動	行財政運営	環境	産業	観光・スポーツ	健康福祉	教育	都市基盤	防災・安全安心
------	-------	----	----	---------	------	----	------	---------